彩の国 埼玉県
Saitama Cancer Center News

がんセンターだより

第 46 号
平成28年２月15日 発行
発 行
埼玉県立がんセンター
発行責任者
病 院 長
坂 本 裕 彦

基本理念 “唯惜命”

私達は生命の尊厳と倫理を重んじ、先進の医療と博愛・奉仕の精神によって、がんで苦しむことのない世界をめざします。

目次

- がんセンターにおける脳神経外科について…… 1
- ６階西病棟　病棟紹介…… 2
- 検査技術部の紹介（採血室）…… 3
- バイオバンクの目的及び期待される成果／みどりの図書室（らいぶらりぃ）…… 4

埼玉県のマスコット コバトン

がんセンターにおける 脳神経外科 について

脳神経外科部長
椿本　清史

一般の脳神経外科では、腫瘍、脳血管障害、頭部外傷、脊髄・脊椎疾患、先天性神経疾患、神経系感染症、片頭痛、顔面けいれん、てんかん、パーキンソン病や認知症の一部など多岐にわたる疾患を治療しています。当科は、脳腫瘍を中心に治療している少し風変わりな脳神経外科です。

「脳腫瘍」と聞くと、恐ろしい病と思われる方もおられるのではないでしょうか。脳卒中や頭部外傷などに比べ、聞きなれた、身近な病気ではないことが一因と考えられます。脳腫瘍は、頭蓋内から発生する原発性脳腫瘍とがんによる転移性脳腫瘍に大別されます。2000年以降、当科で行った手術は、年平均50～60件ですが、その内訳は、原発性脳腫瘍が約30%、転移性脳腫瘍が約60%を占めています。

画像診断技術は近年、目覚ましく進歩しています。一例をあげますと、磁気共鳴画像(MRI)では、これまでより詳細なミリ単位の微細構造が識別でき、さらに、運動や言語といった大切な神経関連領域を表示することができるようになりました。これらにより安全な手術と治療後に神経機能を温存することができるようになっています。

治療法は、年齢、腫瘍型、発生部位や悪性度などを総合的に判断し決定します。脳ドッグで発見された無症状の脳腫瘍が紹介されることが増加していますが、一定期間、画像を観察し、腫瘍増大や症状出現時に治療を開始することを基本としており、初診からすぐに手術を計画するわけではありません。治療が必要な場合は、手術･放射線療法･化学療法のいずれかまたはこれらを組み合わせて行います。このうち、放射線治療の分野では、県内で唯一の「高精度放射線治療装置」が一昨年より稼働しており、年間約80件の定位放射線治療(SRT)を行っています。SRTは、1～5個までの転移性脳腫瘍と一部の原発性脳腫瘍を治療でき、これまで約1か月を要した治療期間が1～3日に短縮され、精度の向上に伴い正常脳組織への副作用がほとんどないなど理想的な放射線治療です。

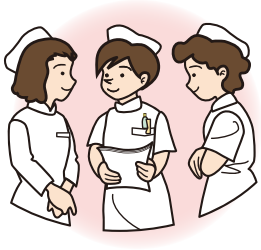
当科の日常診療のもう一つの柱が、神経疾患への対応です。全ての診療科の患者さんに、がんの治療中に、痙攣を生じたり、意識が遠のいたり、手足のまひや言語障害などの神経症状が出現することがあります。その際には、担当医と連携して、迅速に原因を究明し治療を行っています。

脳梗塞などの既往を有する患者さんや、神経系合併症を生じた患者さんが、安心してがんの治療を受けられることと脳腫瘍の治療成績の向上を目指して、今後も努力していきたいと考えています。

師長
黒沢　伸子

6階西病棟は、平成26年1月がんセンター新病院オープンと共に新設された消化器内科、消化器外科、頭頸部外科、皮膚科の4科からなる全ベッド数43床の混合病棟です。

6階西病棟最大の特徴は、「食道がん」の集学的治療を行っていることです。患者さんが、初めにがんセンターを受診したときから、消化器内科・外科、放射線治療科、頭頸部外科などの医師と外来・病棟看護師、摂食嚥下障害看護認定看護師、がん放射線療法看護認定看護師、薬剤師、リハビリ、栄養部など他職種が連携を行い、診断、治療の決定、治療後の社会復帰を見据えたカンファレンスを繰り返し行っています。多職種との連携を持つことは、まだ開床して2年余りの病棟で難しいこともありますが、「誰もが気持ちよく働ける病棟」をスローガンに、医師と看護師が協同し取り組んできました。毎週火曜日は、当該科の代表医師、看護師長、副師長、主任によるミーティングを行い、病棟の問題点や病棟運営などに関する事柄を繰り返し話し合いました。その結果、職種を越えた横のつながりが強くなりました。



がんセンターは、昨年11月24日、25日病院機能評価を受審しました。6階西病棟はケアプロセスの病棟訪問審査を行いました。食道がん患者さんが、告知を受け、治療を決定し、治療を受ける、そして退院するまでの過程で様々な職種の医療者が関わり、患者さんを支えている事、そしてそのつなぎ目が決して離れてはいけないこと、その役割を看護師が担っていることを改めて気付かされました。

7月の病院機能評価模擬受審を含め、病棟スタッフが一丸となり看護ケアの見直しと改善、安全な医療提供を目指して病棟全体の環境整備に取り組みました。以前は煩雑だった経管栄養物品の収納は、患者別の収容に変更し、清潔で安全に管理ができるレイアウトになりました。病院機能評価受審は、新病院引っ越しに続く大きなイベントで、新設の6階西病棟には少し荷が重いのではと思いましたが、ケアプロセスのプレゼンテーションを通して、チーム医療の重要性や看護の振り返りと今後の課題が見えたこと、そして何より多くの職員と連携し、侵襲の高い食道がんの全治療期に携わっていることの誇りと自信を持つことができました。

これからも質の高い医療、看護の提供に病棟全体で取り組み、がんで苦しむことのない世界を目指し、日々努力していきたいと考えています。

検査技術部の紹介（採血室）

今回は、病院に来て多くの方が訪れる外来採血室をご紹介します。

こちらでは、まず自動受付機で受付をお願いします。受付票を受け取り、奥の待合室でお待ちください。受付番号は5000番台になっております。

自動受付機

待合室は暖色系のオレンジを基調にしています。リラックスしてお待ち下さい。待合室の大型モニターに受付番号が表示されたら該当する採血ブースにお進みください。順番が多少前後することがあります。ご了承ください。

待合室

待ち時間には、臨床検査の小冊子・検査項目説明書や講演会のお知らせなどをご覧ください。ご自由にお持ち帰りいただけます。

大型モニター

外来採血室では、患者さんから受け取った受付票と採血管を患者IDで照合し、患者認証を行っております。同姓同名の方がいる患者さんも氏名確認のみで安心して採血を受けて頂けます。実際の採血では、チクッと痛みがありますがお許しください。また採血後、内出血防止のため絆創膏は、しっかり押さえておいて下さい。

採血ブース

さて、最近外来患者数の増加に伴い採血待ち時間が長くなっております。安全・迅速・正確をモットーに採血を行って行きますので、ご理解の程お願いします。

急変時対応のトレーニングを定期的に行っています

採血室では、血管迷走神経反射をはじめとし、患者さんの急変に遭遇することが稀にあります。あらゆる場面を想定し自分達が模擬患者となり、定期的に急変時対応のトレーニングを行っています。患者さんの処置に熟練した看護師と、検査・機器に精通した検査技師そして臨床経験豊富な検査管理医でチームを組み、患者さんの安全・安心に取り組んでいます。

（検査技術部：佐竹・山岸）

バイオバンクの目的及び期待される成果

バイオバンク検討委員会ワーキンググループ　大平美紀　春田雅之　竹信尚典　上條岳彦

臨床腫瘍研究所
大平　美紀

「バイオバンク」とは、将来の様々な医学研究に役立てるため、あらかじめ提供者に許可を得たうえで、日々の診療の中で採取・摘出される生体試料の検査後の残りを、検体に付随する臨床情報とともに研究用資源として保管（バンキング）した試料群です。国内の 6 つの国立高度専門医療研究センターが連携して運用しているバイオバンクが有名ですが、埼玉県立がんセンターにおいても、県民の皆様に還元できる研究に役立てるべく、平成 26 年度から運用が開始されました。バイオバンクの検体や臨床情報は、誰のものであるかわからないように登録時に匿名化処理され、検体は可能な限り広い範囲の研究に活用できるよう、タンパク質や DNA、RNA など核酸を安定に保管できる－80℃の超低温冷凍庫に長期保管されます。当院では二重のアラームシステムで安全に保管されています。研究使用にあたっては、倫理審査委員会で内容が妥当と承認されることが必要です。運営のあり方については、各科の代表からなるバイオバンク検討委員会にて現在も話し合われています。予想される研究としては、がん種を揃えて、同じ治療に対する反応性が良い群と悪い群とで腫瘍組織内の遺伝子の発現量を比較することによって、治療反応性の予測マーカーを同定したり、原因が未だ不明な特定のがん種の DNA を複数症例 次世代シーケンサーで読み取り、非がん部と異なっている箇所を探し出すことで、原因となっているがん関連遺伝子をみつける研究などに応用できます。長期間運営するほど、検体数と付随する情報は蓄積され、当センター独自の質の高い研究基盤に育っていきます。当院のがんの TR・臨床研究振興のため、皆様のご理解ご協力をお願いいたします。

（写真）バイオバンクフリーザーと温度モニター
冷凍庫の故障などにより検体の品質が損なわれることを避けるため、保管用の冷凍庫は温度監視警報システムにより、常時温度がモニターされています。

みどりの図書室（らいぶらりぃ）

（2 階医学図書館内）

開館時間　月～金　9：00 ～ 17：00
休館　土日・国民の祝日・年末年始
貸　出　3 冊まで　期間 1 週間（図書のみ）
★初めてお借りになる場合は、ご住所を確認できるもの（免許証など）をお持ちください

最近受入れた図書のご案内

★『がんで困ったときに開く本 2016：今さら聞けないがんの悩み・疑問 241 を Q&A で解決！』朝日新聞出版　2015 年
★『ひとまずがんの治療を終えたあなたへ：その後の気持ちに対処する方法』国書刊行会　2015 年
★『緑茶カテキンの力』　藤木　博太　梓書院　2015 年
★『患者のマナー：医者との上手なつき合い方』　大鐘　稔彦　金原出版　2001 年
★『やさしいがんの痛みの自己管理 改訂 4 版』　武田 文和　医薬ジャーナル社　2015 年
★『がん治療前の食事のヒント：治療を始める前の栄養と食 Q&A 改訂版』がん研究振興財団　2015 年
★『患者と家族にもよくわかる GIST 消化管間質腫瘍ガイドブック』メディカルレビュー社　2014 年
★『がん研有明病院の大腸がん治療に向きあう食事：術前術後の疑問に答えます！』女子栄養大学出版部　2015 年
★『子宮がん・卵巣がんそのあとに… 手術以後のすごし方』　保健同人社　2015 年
★『やさしい肺がん外来化学療法へのアプローチ』医薬ジャーナル社　2015 年
★『患者さんのための膵がん診療ガイドラインの解説』金原出版　2015 年